

議会だより

さんのへ

第195号 (令和4年12月議会号)

- P2 議会基本条例を制定しました
- P4 議員14名 ことしの抱負
- P6 一般質問 (5議員)
- P11 議決結果
- P12 議案審議、臨時議会報告
- P13 議会活動レポート
- P14 ... タブレット導入・3月議会予定・編集後記

令和5年の走り初め

1月1日、穏やかな空のもと、恒例の元旦マラソン大会が開催され、子どもからお年寄りまで97人が参加しました。熊原川沿いのコースには雪もなく、新春のさわやかな空気の中、気持ちよく走りました。(撮影:栗谷川柳子)





三戸町議会基本条例 を制定しました。

情報共有

住民参加

機能強化

町民から選挙で選ばれた議員によって構成される議会は、同じく町民から選ばれた町長とともに、三戸町の代表機関を構成しています。議会および町長は、この二元代表制のもとで、共に町民の負託を受けて活動しています。町民の意思を町政に的確に反映させるため、議論しあい、連携し、その使命を果たす責務を負っています。

議会基本条例制定の必要性

町民に対し、その役割や議会と町民との関係、議会と町長との関係などを明示するとともに、議会のあるべき姿、進むべき方向、議会と議員が負わねばならない責務を定め、町民に信頼され、存在感のある議会運営を目指す事を条例に明文化するもので、本町議会の「高規範」となるものです。

議会基本条例ってなに？

三戸町議会では、町民に開かれた議会を実現するため、具体的実行テーマを設定し、議会及び議員の活動の充実と活性化を図りながら、「議会改革」の理念と方向性を制度化し、改革の歩みを後退させないということを町民の皆様にご約束するため、12月定例会において、「三戸町議会基本条例」を議員が提案し、全会一致で可決、令和5年1月1日施行されました。

(編集・藤原文雄)



県内で他の町村に先がけて条例制定した六戸町議会を視察

地方分権の時代を迎え、地域の自立が求められ、自治体の自己責任の範囲が拡大した現在、議会が町民の代表機関として、地域における民主主義の発



町民との対話の場も設けました。

一般質問での一問一答方式の採用(平成14年)や一般質問のネットでの録画配信(平成28年)などがあります。

これまでの議会改革の取り組み

展と住民福祉の向上のために果たすべき役割はますます大きくなっています。議会は、その持てる機能を十分に駆使して、積極的な情報の発信と公開、政策形成への町民参加の推進、議員間討議及び行政機関との自由で活発な討議の展開、町長等の行政機関との緊張の保持、議員の自己研さんと資質の向上、公正性と透明性の確保等について独自の議会運営のルールを定め、順守し、実践することにより、町民に信頼され、存在感のある、活動力と創造力の豊かな議会を築いていく必要があります。

三戸町議会基本条例では下記のようなものが定められています。

- 制定の目的
- 議会の役割
- 議会の活動原則
- 議会活動実行計画の策定
- 町民参加及び町民との連携
- 議員と町長等執行機関との関係
- 議員定数・議員報酬
- 議員間の自由討議と合意形成
- 議会事務局の体制整備
- 議会図書の実充
- 議員研修の実充強化
- 広報及び公聴
- 議員の政治倫理
- 災害時の対応
- 最高規範性
- 条例の見直し



※三戸町議会基本条例は議会ホームページでご覧いただけます！

<https://www.town.sannohe.aomori.jp/choseijoho/gikai/index.html>

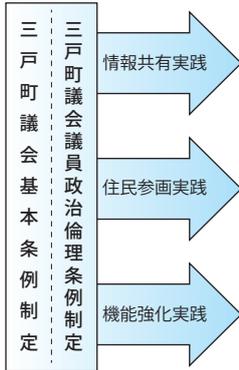
新たな取り組み

【反問権の付与】町長ら職員が逆に議員へ質問する反問権の行使は、議員の質問の意図などを確認する場合などを想定しており、ポイントとして「反論ではなく反問であること」「議長の許可を得てから反問権の行使」などです。

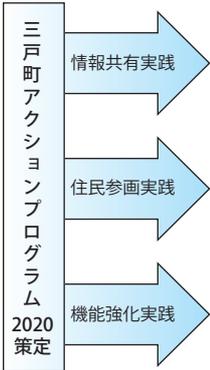
「三戸町議会活動実行計画」アクションプログラム2020の策定

議員の任期中に行う議会の実行計画として、令和2年9月に作成したものであり、町民に開かれた議会を実現するため、情報共有、住民参加、機能強化の3つの項目を軸とし、具体的な実行テーマを設定し、それぞれの目標や工程等を定めた計画です。

町民に開かれた議会へ



議会改革の実践



「アクティブな姿勢」

令和4年5月、議員・議会のありたい姿について議員全員で話し合い、それぞれの意見や決意を表現している言葉として、「アクティブ」の言葉を条例に入れました。



階上町議会が三戸町議会を視察

令和5年1月17日、議会基本条例の制定を目指している階上町議会議員の皆さんの視察を受けました。出来たての条例についての視察依頼ということですが、当町議員も恐縮しきりでしたが、

正副議長と議会運営委員で、条例制定のきっかけや検討体制、作業スケジュール、条例制定にあたりこだわった部分などについて説明しました。



11月14日、町の友好都市である、静岡県牧之原市の議員の皆さんの視察を受け入れました。牧之原市とは、4年ごとに互いに訪問し、先進的な取り組みなどについて研修を行っています。

三戸町議会議員 14名

ことしの抱負



竹原 義人 議長

昨年は世界の社会情勢が激変し、私たちの生活も変化を求められる時代となりました。議会では、昨年12月に念願の「三戸町議会基本条例」を制定しました。この条例は、議会の最高規範として町民の幸せのため、町民本位の立場に立ち、議会活動を行うことを誓うものです。ことしは皆さんの声をより多く届けるため「アクティブな姿勢」で活動し、より開かれた議会を目指してまいります。



佐々木 和志 議員

これからの地方自治は、地域だけでなく国施策や国際情勢に即応した運営が不可欠となります。単一の議員活動には限界があり、議員全員が課題本質の共有を図りながら政策立案し、町政に提示していく議会運営が今後強く求められます。議会の説明責任と住民の理解協力による官民協働体制を整え、制定した議会基本条例に沿って、ことしが議会改革の実現に向けた礎の年となるよう努めます。



澤田 道憲 議員

高齢化率は約43%であり、2025年には超高齢化時代が到来し、高齢者のひとり暮らしや孤立による体や心の不調は、医療だけでは解決できないこともあると思われます。そこで、困っている人や悩んでいる人が生き生きとした生活を送れるよう、地域の助け合いや、日ごろの繋がりのある生活や住環境整備が大事と考えます。不安を抱く住民を、地域で見守り、支えていくことが行政の大きな課題でもあり、町民や議員の皆さんと大いに議論し、真剣に取り組めます。



久慈 聡 議員

議員2期目最後の年を迎えます。今できることを最大限に考え行動し、一般質問を軸とした議員活動を行ってきました。将来、良かったと思っただけのようなまちづくりのために、少しでも貢献できるよう誠心誠意取り組みます。観光資源である三戸城跡を活用した政策や、少子高齢化に対応した福祉政策、人口減少社会への的確な対応等を課題とし、常に新しい視点で物事を考え、誠実に情熱をもって取り組みます。



千葉 有子 議員

タブレットを、町民参加や議会活動、自身の議員活動にも活用できるよう勉強したいと思います。そしてまた何よりも町民の皆さまの声、現場からの声を大事にして活動する姿勢を貫きたいと、心新たに思っています。特に「子育て環境」「保育・教育環境」「高齢者の毎日の生活の安心」に力を入れて活動します。



番屋 博光 議員

町の少子高齢化が進む中で、町民の声に耳を傾け、今後の取り組みに生かし、三戸町の活性化、特に町道や農道の整備、耕作放棄地の活用に努めてまいります。



藤原 文雄 議員

懸案であった議会基本条例が、1月1日から施行され、これまで以上に議員としての自覚を持ち、活動しなければと思っています。

まずは、町民の皆さまのお話を伺う機会を持てるよう、積極的に動き回りたいと思いますので、よろしくお願いします。



栗谷川 柳子 議員

1月1日から、議員で3年間議論を重ねた議会基本条例が施行されました。条例第5条の議員の活動原則では「アクティブな姿勢」を原則として5つの活動を行うことを定めています。よりアクティブな議会運営となるよう全力を注ぎます。自身の議員活動では、昨年少し勇気が足りずにできなかったことを、“自立”と“五気”（元気、やる気、勇気、本気、根気）の心をもってアクティブにチャレンジします。呼ばってください！



山田 将之 議員

これまで議会改革に積極的に携わり、昨年はタブレット端末の導入や議会基本条例を策定することができました。議員任期の総括となる大切なこの1年。議会について、自分について、改めて見つめ直し、少しでもみなさんの役に立てるような1年にしたいと思います。自身の議員力をもっと高め、コミュニケーションを心がけ、止まることなく1年間走り続けます！



乗上 健夫 議員

議会では昨年よりタブレットを活用するようになりましたが、私自身アナログ人間ですので、悪戦苦闘しております。

日ごろより若い議員とのジェネレーションギャップを感じつつ活動していますが、これを機にアナログからデジタルへと変換できるようがんばります。



越後 貞男 議員

議会議員任期も残り1年余りとなりましたが、昨年までと同様に町民の声に耳を傾け、町政に反映できるよう、努力してまいります。特に三戸町で取り組みが遅れている町道や農道の整備、そして農業の生産基盤の強化に努め、町の発展と町民が生きがいを感じられるまちづくりに、微力ながら尽力してまいります。



和田 誠 議員

タブレットの操作は難しいですが、早いうちに覚えたいと思います。

町民の声が反映された町政になるよう、皆さまとよく話し合い、特にインフラ整備に関し、町へ意見をしていきたいと考えています。



小笠原 君男 議員

12月議会から、タブレット端末を使用することになり、その操作に日々悪戦苦闘しています。しかしながら、こつこつといかないまでも、何とか使いこなしたいと考えています。



柳 圭太 議員

昨年は議会活動、町内会・地域行事等を通じて多くの方々と出会い、対話により自分自身が成長できた一年でした。また、町では三戸城跡が国の史跡指定を受けた貴重な年ともなりました。今後も行政や町民の皆さまとの意見交換を重ね、町の活性化を一步一步進めてまいります。世の中の諸情勢により不安な日々を過ごしていることと思いますが、今後も町民の安心安全な生活のために精一杯努めます。



映像配信

山田 将之 議員



Q1 三戸町の自治体DXの推進について

デジタル化を進め、便利な世の中を実現する「DX（デジタルトランスフォーメーション）」の推進が提唱され、国では、デジタル庁の設置や自治体DX推進計画の策定など特に力を入れて進めている。「DX」は、住民の生活に広く影響し、地域社会経済全般の発展課題解決に大きく資すると思われる。

- ① 自治体DXの推進について、町はどうか認識しているか。
- ② 三戸町におけるデジタル活用状況と今後の計画は。
- ③ マイナンバーカード普及促進

Q・DXに対する町長の意識は？

A・生産性の向上のため進めていく。

の状況と今後の見通しは。

A 松尾町長

① デジタル技術やデータ、AIなどの活用で、住民の利便性の向上と、業務の効率化や人的サービスの向上につなげる。具体的には行政手続きのオンライン化や押印の見直し、システムの標準化、AI・RPAの活用などがある。

② 昨年度押印の見直しに着手し、令和5年3月以降は子育てや介護に関する手続きのオンライン申請を開始する。またAIやRPAの活用などで業務見直しを行い、行政サービスなどの利便性の向上につなげたい。

③ 11月末の交付件数は4,140件、交付率は43.8%である。町では普及のためにカード新規取得者への2,000円分の商品券配布のほか、町内写真店で写真撮影した方には1,000円の商品券を贈呈している。また、申請者の利便性向上のため、郵便局での申請受付や職員による出張申請受付を実施

しており、引き続き積極的に支援し、普及に努める。

再質問①

DXはトップの意識、経営の問題と言われている。今後はデジタル技術への自治体トップの意識の差が、地域に大きく影響していくと感じるが、町長の意識、今後の考えは。

A 松尾町長

人口減少という時代背景もあり、国からはそれぞれの現場での生産性の向上が示されている。デジタル技術の活用によるオートメーション化で人的不足を補い、さらに広くサービスを拡充していく社会になるよう取り組んでいる。課題もあるが、首長としてDXは進めたい。

再質問②

今回の議会から、議員のタブレット端末の利用が始まったが、町長はじめ職員側も同じようにタブレットを導入すること、初めて機能したり、新たな

デジタルトランスフォーメーションとは？
情報技術の進化により、ビジネスだけでなく、人々の生活もより良いものへ変革する概念のこと。

価値が生まれたりすると考えるが、導入は検討しているか？

A 総務課長

当初の希望では議員のほか、町長、副町長、教育長も含まれていたが、いったん様子を見ることで予算化しなかったが、新年度は検討を進める。それ以外の課長級の分については、アンドロイドのタブレットがあり、活用できるか検討する。

再質問③

国はデジタル田園都市国家構想により、交付金などの支援策を打ち出しており、デジタル活用のレベルを3段階に分類し、交付金額を決定しているが、三戸町は一番下のレベルにも該当していないと感じる。国では参考事例集も用意しており、ぜひ取り組みにチャレンジしてほしいと思うが、町の考えはどうか。

A 総務課長

デジタル田園都市国家構想交付金の受給には、マイナンバー

カードの申請率が53.9%以上の自治体という要件があり、残念ながら三戸町は下回っているため、対象外である。

マイナンバーカードには2つアプリが入り、ひとつは住民票やマイナンバーが入るエリア。もうひとつのエリアは町独自で運用できるが、対応するアプリはまだ広く浸透していないため費用が高額である。今後普及が広がり安価になったときのために、調査・検討を続ける。

再質問④

マイナンバーカード交付率の向上のため、町は大変頑張っているが、配布されたチラシには取得するメリットが記載されていない。町民にとってのメリットは何か。

A 住民福祉課長

第1に本人確認書類となること。他には保険証として使えることに加え、その人の健康に関するデータを各医療機関で利用できるようなこと。新型コロナナでは接種証明、電子署名、電子公布等に利用できること。税金の申告の際に利用できるなど、さまざまなメリットがある。



千葉 有子 議員



Q1 地域おこし協力隊の増員について

農家の担い手不足等で消滅危機にあるガマズミや、生産量不足のエゴマ等の農産物のほか、三戸高校の魅力化や放課後学童への協力など、担当課の発案に限らず、町長自ら地域おこし協力隊の活用、採用を考える気持ちはないか。

A 松尾町長

町ではこれまで4名の隊員を受け入れ、うち1名が令和4年10月に町内にカフェを開業した。現在は三戸高校魅力化、ホップ生産復活、有害鳥獣対策の3つのミッションに従事する隊員を募集しており、町の課題に対し、隊員制度を活用するよう私が指示し、各課が課題を整理し提案しているものである。

Q. 町長自ら地域おこし協力隊の活用を考える気持ちは？
A. 町の課題に対し、私が指示して提案している。

再質問①

三戸高校魅力化ミッションの隊員に、町が期待する活動は何か。

A 慶長教育長

隊員には、三戸高校で行っているSDGsをテーマとしたまちづくり、地域活性化人口減少対策などの学習について、高校と地域を繋ぐコーディネーターとしての活動のほか、全国募集の広報活動や入学者への支援、さらには三戸学園と三戸高校の連携への支援などを考えている。

再質問②

ホップは復活だが、ガマズミは消滅から守るべき地場産品である。以前の答弁では担当課から要望が上がらなければ検討しないとのことだったが、ガマズミでの隊員の登用は難しいのか。

A 農林課長

近年のシカやイノシシによる被害を食い止めるため、今年は有害鳥獣を優先した。

ガマズミはまだ産業として残っているが、生産者の減少や高齢化といった問題のほか、単価が安く、生産が収入につながるかどうかという問題もある。隊員に生産を依頼し、単価が上がるかなども検討しながら進めなければならぬ。

再質問③

11月の収穫時には、副町長が弘前大学の学生らと一緒に収穫を手伝い、町の特産品として改めて産学官での取り組みを進めなければならないと発言している。外部の視点や行政ではできない行動力なども協力隊活用の目的である。今すぐではなくとも協力隊の増員を視野に入れてほしいがどうか。

A 松尾町長

弘前大学との連携の中で出てくる課題を町もしっかりと検証し、次につながるよう打ち合わせし、応援していく。

A 馬場副町長

課題はやはり、どんな商品を作って、どういう収益を農家が

得られるかである。自らガマズミに興味を持ち、協力隊として三戸町にきたいという人がいれば、採用できるかもしれない。

Q2 18歳成人若者への支援について

2001年のブックスタート事業に始まる絵本での人づくりが、今日の「11びきのねこの町」として定着した背景からも、大人の自覚を持ち、また、町への愛郷心を育み、郷土に誇りを持つメッセージ性のある馬場のぼる先生の絵本を、18才成人の記念品として贈呈することが、町にしかできない支援になると考えるが、町長はどうか考えるか。

A 松尾町長

三戸高校では読書に興味を持ってもらうため、教員が読み聞かせをしていると聞いている。そのような機会に馬場のぼる氏の絵本を活用してもらい、郷土の誇りを再認識してもらおうのが効果的である。

また、自分が幼少期に読んでもらった記憶や思い出が詰まっ

た絵本は、自分の子どもへと、世代を引き継いでいくことが肝要であるため、絵本の贈呈は予定していない。

A 慶長教育長

民法で成人の年齢が18歳に改正され、町で成人式の取扱いを検討した結果、これまでどおり20歳の年に式典を行い、記念品を贈ることとしたことなど、総合的に判断し、18歳成人への記念品の贈呈は現時点では考えていない。

再質問①

絵本を贈呈することが私の質問の一番の目的ではなく、18歳が大人の仲間入りの節目であり、町が町民を大切にしている気持ちは表すことが目的であるが、町長の考え方を再度お聞かせ願いたい。

A 松尾町長

今の町の考えは、20歳にお祝いすると一旦決めたところであるが、将来的なことは、柔軟にその時々々の状況を考えることが私のモットーであるため、それに固執するつもりはない。ただ、2自治体が18歳成人式を行っていることについては、その背景や状況がわからないので十分な答弁はできない。



映像配信

藤原 文雄 議員



Q1 学校安全・危機管理について

事故や災害、交通事故などは、学校教育において子どもたちの安全を脅かす。

教育現場では対策を実施しているが、近年は、様々な事件や災害が多発し、学校安全に関わる取り組みの見直しと充実が求められている。

当町では学校統廃合による学区の拡大や、部活動のスポーツ少年団等への移行などの変化の中、どのような危機管理がなされているのか、以下について質問します。

- ① 登下校時における安全確保の取り組み状況。
- ② 学校施設の防犯対策状況。
- ③ 学校事故の発生状況及び体制整備状況。
- ④ 外部指導者との安全確保に向

Q・登下校時の安全確保の取り組みは？

A・学校、警察等の関係者合同点検を実施している。

けた取り組みや計画。今後の安全上の課題抽出に向けた取り組みや計画。

A 慶長教育長

- ① 通学路の危険箇所は、学校、道路管理者、警察等の関係者による合同点検を実施し、令和3年度は24か所の対策、検討がなされたほか、教員による通学路確認、警察による交通安全教室などにより安全確保に努めている。
- ② 不審者対策としてさまざまな防犯ランチャー、防犯チャイム、防犯カメラなどの設置と、不審者対応訓練を通じて職員や児童生徒の防犯意識向上を図っている。

③ 学校事故は11月時点で三戸小3件、斗川小0件、三戸中学校14件で、主に部活動でのけがである。

負傷者発生の際は危機管理マニュアルに基づき、教員、養護教諭が連携して応急対応し、必要に応じ医療機関へ搬送する体制を整備しているほか、

か、教育委員会や保護者との連絡体制も構築している。

- ④ 外部指導者を委嘱する際は、安全確保についての指導確認をし、さらにその際、暴言などのハラスメント行為の防止も確認し、児童生徒の精神面での安全確保にも努めている。
- ⑤ 専門家、教職員による安全点検のほか、保護者アンケートにより保護者目線の安全課題を抽出し、対応している。

令和5年度からは学校運営協議会を構成する多様な人材が学校運営に参画するコミュニティースクールが導入され、安全・危機管理における課題の抽出にも効果的につながる。

再質問①

スクールバス、スクールタクシーを運行する会社のマニュアルの整備状況は、また家用車で通学する児童生徒に現時点で問題はないか。

にはあり、これが流出する問題も近年騒がれているが、対策はされているか。

A 教育委員会事務局長

教職員は、児童生徒の個人情報には校外に持ち出さない、インターネットによるやりとりもさせないことにしている。

児童生徒はタブレットを持ち帰っても、自分のIDがあるため他の人は入れないシステムになっている。

再質問④

外部指導者により指導が行われている際に、災害が発生したときどのように対応するか、また熱中症が起きた際の対応マニュアル等あるか。

A 教育委員会事務局長

災害発生時は、まず児童生徒の安全確認を行った上で学校に連絡をし、学校からの指示に従って動く。学校と教育委員会は情報を共有し対応を進めている。

熱中症はマニュアルに対応が記載されている。

A 教育委員会事務局長

毎年バス会社、タクシース会社と運行にあたっての打ち合わせをする際に、登下校時の安全面についての配慮事項を伝えていく。運行にはそれぞれの会社にもマニュアルがある。

家用車は登校時に集中するため、混雑や駐車場内でのスピードの出しすぎ等の課題があり、対策として安全区画線と徐行の表示を行った。

再質問②

三戸小中学校には通報装置があり、斗川小学校にはないとのことだが、いかに早く電話連絡するかが大前提ではないか。

A 教育委員会事務局長

斗川小学校では口頭などのマニュアルに沿った連絡体制となっているが、三戸小中のようなシステムが導入できないか検討したい。

再質問③

さまざまな個人情報、が学校内



栗谷川柳子 議員



Q1 姉妹都市との交流のあり方について

国際化が進み、子どもたちへの国際理解教育が求められている。この観点で、姉妹都市であるタムワース市との交流のあり方について、今以上に有用性の高い交流をすべしと思うが、町の考えは。

A 松尾町長

年明けの早い時期にタムワースへ訪問し、このことを念頭に意見交換を行う。

A 慶長教育長

タムワース市をはじめ、交流先の学校とも協議を進め、派遣事業の再開や交流方法を模索し、国際化に対応した人材育成を見据えた姉妹都市交流を進めたい。

再質問

家族ぐるみでオンラインによる、月に1回または週に1回程

Q・タムワースとオンラインでの交流ができないか？

A・海外派遣前に交流することで相乗効果が生まれる。

度の気軽な交流ができないか。

A 教育委員会事務局長

現在ひとり1台タブレットを持っており、海外と気軽に交流できる。タムワースへ行く8年生も、事前交流してから実際に現地で交流することで相乗効果が生まれると考える。

Q2 三戸高校全国募集への支援について

①町ではオンラインでの合同説明会など、粘り強い支援を行い、12月になって入学希望も現実味を帯びる時期になったが、現況と課題は。
②今後さらなる支援策は検討しているか。

A 松尾町長

① 現況はまだ確定していないが、出願を前向きに考えている生徒が数名いる状態。
② 課題は普通高校であるため、特色を出しづらいことや、魅力化に向けた各種取り組み、入学者の生活支援者や下宿の不足がある。

A 慶長教育長

① オンラインを含む各種説明会を23回開催し、参加者は延べ600人となったほか、11月にはオープンスクールも開催している。
② 魅力化等の人員不足解消のため、魅力化コーディネーターとして、地域おこし協力隊1名の採用を予定している。下宿の確保も調整中である。

再質問

現役高校生が必要とする支援を調査し、中高生の心を揺るがす支援をしていただきたいが、考えはあるか。

A 教育委員会事務局長

学習面だけでなく、高校選択の理由のひとつである部活動や、放課後の活動などを支援することで、社会に出たときや、未来に繋げていきたいと考えている。

Q3 可燃ごみの減量化対策

環境への配慮のほか、ごみ処

理施設の延命化のため、可燃ごみの減量化が求められる。当町では古着回収や、資源ごみの集団回収支援などに力を入れているが、さらなる減量化の考えはあるか。

A 松尾町長

可燃物の3割を占める紙類の分別の徹底、同じく3割を占める生ごみの水切りや、食品ロスの削減意識の啓発を行うほか、古着の回収方法も工夫したい。町民一人ひとりの意識や工夫が必要のため、三戸高校や三戸小学校への出前講座を実施し、子どもたちからの意識の醸成を図りたい。

再質問

町による古着回収を知らない人、知っていても運べない人はまだいるはずであり、さらに古着を回収すれば、まだまだごみを減らせると町は捉えているか。

A 住民福祉課長

燃やせるごみのうち、布類は

全体の7%であり、共に3割と組成の多い紙類、生ごみの減量に力を入れている。

Q4 安全・安心のための防犯カメラ設置について

犯罪抑止や安全・安心な地域づくりのために防犯カメラを設置する自治体が増加している。子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域づくりのため、町では町内に防犯カメラを設置する考えはあるか。

A 松尾町長

現在のところ予定していないが、設置にあたっての方策など整理したい。

再質問

商店街や町内会で設置するための補助制度により設置を促せないか。

A 総務課長

地域の合意を得ることや、必要な台数などが確定し、町が必要と判断すれば、新たな補助金が設置されるが、県警からの貸与や国の補助金等があれば税制負担が軽減されるので、それを含めて検討したい。



久慈 聡 議員



Q1 城山公園下山道について

三戸城跡城山公園の裏を通る町道は、対面通行をする際、道路幅が狭く、崖などがあり危険な道路である。この町道の今後の整備計画等はあるか。

A 松尾町長

土地の形状を変える大規模な改良工事は史跡三戸城跡保存活用計画との整合性や、国や県との協議に時間が必要であるため、まずはできることとして注意喚起の看板の設置やカーブミラー、ガードレールの更新が考えられる。

再質問①

カーブミラーが5か所に設置されているが、3か所は凹凸がひどく、見えなくなっていたり、曲がったりしている危険な状況である。また崖の砂利の道路へ

Q・下山道危険個所の整備はできないのか？
A・すぐできることから準備を進める。

の落下や枝の落下、倒木もあるが、危険防止のため何か取り組んでいるか。

A 建設課長

公園管理人がパトロールし、随時撤去等行っている。建設課でも大雨や強風の際はパトロールを実施し、対処している。

再質問②

下山道の活用方法として①使う・使わないか②車両通行させる・させない③通行するなら対面か一方通行か、などの選択肢になると思うが、整備を行う方向で考えられないか。

A 松尾町長

国指定史跡になると、町道も公園管理道路への用途の切り替えも考えなければならぬ。時代の変化とともに見直す部分は見直し、しっかりと考え方をまとめて、安全管理上すぐできることはやりながら、国とも協議しながら整備に向け準備を進める。

Q2 農業法人の推進について

後継者不足による農業従事者の減少や、天候の影響による収入低下など、小規模農家や兼業農家は経営に苦慮しているが、解決策の1つとして、農業法人化への取組が考えられるが、町はどう分析しているか、また現在の取組や今後の目標はあるか。

A 松尾町長

これまで町内農業者向けに、農業法人化の研修会や先進地視察、集落単位の説明会を実施しており、現在法人化に向けた前段階の、任意組織である集落営農への取り組みを進めており、今後は法人化のメリット、デメリットを整理し、地域の農業の維持発展体制構築を図る。

再質問①

高齢の小規模農家の法人化は難しいため、新規のモデル事業として、町が農業法人を作って就農者の受け入れや育成を図り、配置していくなどの仕組み

作りも必要と思うがどうか。

A 農林課長

町と農協とほかの団体で社団法人を立ち上げた事例が全国で1件あるが、農業であるため、農協や土地改良区等いろいろな団体が絡むため、協議しながら進めなければならぬ。集落営農の立ち上げには、国から税理士費用などの経費が定額補助されているため、強く紹介していきたい。

再質問②

法人化により雇用が生まれ、新規就農者の移住に繋がり、人材確保、定住に繋がるため、一歩踏み出しモデル事業を実施する考えはないか。

A 松尾町長

町が直接関わるのは難しいが、そういった提案をする企業など、担い手の思いに対しては、しっかりと支えていく。

Q3 町有施設の光熱水費について

東北電力が令和5年4月から

30%超の大幅な電気料金値上げを経済産業省に申請し、認められれば私たちの生活に更に影響が及ぶ。これは、町が管理する施設も同様だと思うが、町では各施設の電気使用状況、値上げへの対策など考えているか。

A 松尾町長

街灯も含めた町所有施設全体の電気料金は、令和元年から3年まで、1億2千万円前後と、横ばいで推移している。値上げ対策はこれまで、新電力への切り替え、太陽光発電、こまめな消灯、ノー残業デーなど実施しているほか、サーバーのクラウド化も進めている。今後も照明や空調設備更新の際に、省エネ効果の高いものを選定し、随時省エネに努める。

再質問

設備投資をしなければランニングコストが下がらないのがLED化だが、行政として決断すべきなのか、時期尚早なのか、町長はどう考えているか。

A 松尾町長

国の温室効果ガス排出ゼロの取り組みに対し、自治体は実行計画を策定する予定である。これにより国の補助金も受けやすくなるため、補助金、交付金を活用した事業ができるよう取り組む。

議決結果一覧

議案番号	件名	議決月日	議決結果
議員提案 第2号	三戸町議会基本条例の制定について 【概要】議会の最高規範として、議会および議員の活動原則と役割を定め、議会機能を強化し、町民の負託に的確に応えることを目的に制定するもの。	12月13日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第67号	三戸町情報通信技術を活用した行政の推進等に関する条例の制定について 【概要】町の機関等での諸手続きをオンラインで実施できるよう、基本的事項を定めるもの。	12月13日	
議案 第68号	地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について 【概要】地方公務員の定年が令和5年度から2年に1歳ずつ段階的に引き上げられることになったため、職員の給与や待遇について、必要な措置を講ずるもの。	12月13日	
議案 第69号	三戸町職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例案 【概要】国家公務員の制度同様、令和13年までに段階的に定年を65歳とすることや、役職定年制を設けることなどを定めたもの。	12月13日	
議案 第70号	三戸町立学校給食共同調理場条例の一部を改正する条例案 【概要】三戸高校の魅力化推進や、保護者の負担軽減のため、三戸高校に給食を提供できるようにするもの。	12月13日	
議案 第71号	三戸町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例案 【概要】県の制度の改正に伴い、重度心身障害者医療費助成制度対象者の居住地特例の規定を改正するもの。	12月13日	
議案 第72号	財産の減額譲渡について 【概要】以前寄附を受けた、同心町の町有地の売却相手が決定したことから、議会の議決を行うもの。	12月13日	
議案 第73号	三戸町固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めることについて 【概要】任期満了を迎える竹原広実氏を再任するもの。	12月13日	原案同意 (賛成13・反対0)
議案 第74号	令和4年度三戸町一般会計補正予算(第10号) 【概要】歳入歳出ともに2億2619万円を追加。主な歳入は地方交付税や国庫支出金。歳出はエネルギー価格高騰対策事業者支援金事業等8172万円や、公共土木施設災害復旧事業3615万円など。	12月13日	原案可決 (賛成13・反対0)
議案 第75号	令和4年度三戸町宮簡易水道事業特別会計補正予算(第2号) 【概要】歳入歳出ともに71万円を追加。主な歳入は繰入金金の減額と繰越金の増額。歳出は総務管理費の減額と課に水道管理費の増額。	12月13日	
議案 第76号	令和4年度三戸町下水道事業特別会計補正予算(第1号) 【概要】歳入歳出それぞれ262万円を追加。主な歳入は繰入金や繰越金の増額。歳出は施設管理費の増額など。	12月13日	
議案 第77号	令和4年度三戸町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第1号) 【概要】歳入歳出それぞれ583万円を追加するもの。主な歳入は前年度繰越金や一般会計繰入金金の増額。歳出は事務費583万円の増額。	12月13日	
議案 第78号	令和4年度三戸町国民健康保険直診勘定三戸中央病院事業特別会計補正予算(第2号) 【概要】収益的収入に1286万円を追加し、収益的支出から88万円を減額。収入は新型コロナウイルス病床確保事業費補助金等の増加によるもの。支出は決算見込みによる給与費等の減額など。また、資本金収入および支出それぞれ535万円を追加し、新型コロナウイルス対応地方創生交付金の活用によりシャワー入浴装置を更新するもの。	12月13日	

案議 議審

三戸高校魅力化推進のため 給食の提供を可能に

主な議案と質疑

■議案第74号

令和4年度三戸町一般会
計補正予算(第10号)

**大学生等応援特産品
贈呈事業費の大幅減
額はなぜ?**

Q 山田 将之議員

大学生等応援特産品贈呈事業委託料が118万円の減額となっているが、その原因は。

A 教育委員会事務局長

令和2年度に実施した大学生への支援金給付事業および自宅外の大学生への特産品贈呈事業の実績を基に、140人を見込んだが、実際の申請者は72名と約半数となったため。

【再質問】

その140名のリストに掲載されている対象者へ、申請なしで送ることはできなかったのか。

A 教育委員会事務局長

令和2年に実施した事業の140人の個人情報、あくまでその事業に限って使用するものとして申請していただいているため、今回の事業には使用することができなかったもの。

**コーディネーター採用
配置支援事業とは?**

Q 千葉 有子議員

コーディネーター採用配置支援事業負担金の事業内容と、採用に向けての現況は?

A 教育委員会事務局長

この事業は、地域おこし協力隊を活用して配置する、三

戸高校の魅力化コーディネーターの研修費用等である。採用状況は、1名の申し込みがあり、現在選考中である。

補助金増額の詳細は?

Q 栗谷川 柳子議員

空き店舗活用事業費補助金100万円と、商工業パワーアップ事業費87万1000円増額の詳細は?

A まちづくり推進課長

空き店舗活用事業費補助金は、1件分の予算に対し、すでに1件支出しており、年度内の新規開業の相談を受けていることから増額補正するもの。

商工業パワーアップ事業費補助金は、すでに昨年度の実績も超えており、年度内の事業5件の相談件数もあることから、増額補正するもの。

■議案第70号

三戸町立学校給食共同調理場条例の一部を改正する条例案

給食費への財政上の支援は?

Q 佐々木 和志議員

三戸高校の置かれている状況を考えれば、給食費の負担部分へ町による財政上の支援を検討してもよいと思うが、考えはあるか?

A 松尾町長

今後何がしかの軽減策、あるいは支援策を町としても考え、魅力化に努めていく。



第506回 臨時会が開催されました

令和4年11月4日、第506回三戸町議会臨時会が開催されました。

案件は令和4年の三戸町一般会計予算に、歳入歳出ともに1億1800万円を追加したもので、内訳は国からの財源により実施する電力等価格高騰緊急支援給付金事業費7839万円、新型コロナウイルスワクチン接種事業費3961万円の増額分であり、全会一致で可決されました。

議案番号	件名	議決月日	議決の結果
議案第66号	令和4年度三戸町一般会計補正予算(第9号)	令和4年11月4日	原案可決(賛成10・反対0)

議会活動レポート



Facebook
でも発信中!!

総務文教常任委員会

千葉 有子・山田 将之
小笠原君男・越後 貞男
佐々木和志

【調査事項】

学校施設の管理運営状況について

10月31日、町立小中学校の管理運営状況を調査するため、斗川小学校、三戸小学校、三戸中学校を訪問しました。



小学校の授業を視察するようす

【主な調査結果・意見等】

- ①斗川小、三戸小中ともに、教師が児童としっかり向き合い、保護者との対話を大事にしている。三戸小なかよし教室は中央児童クラブと連携し、放課後子ども推進事業を進めてほしい。
- ②学校施設・整備の要望は、児童生徒の安全確保と授業の円滑な運営に支障のあるところを優先的に。
- ③コミュニティ・スクールは、三戸高校存続の取り組みにも有効である。

民生商工常任委員会

栗谷川柳子・藤原 文雄
柳平 圭太・乗上 健夫
竹原 義人

【調査事項】

史跡ボランティアガイドの活動について

12月1日、他自治体の史跡ボランティアガイドが、どのように運営されているか、その活動内容を視察するため、南部町正寿寺館跡、八戸

市根城跡の各ボランティアガイドの史跡案内を実際に体験し、その後グループの運営等についてお話を聞きました

【主な調査結果・意見等】

- ・三戸城跡の国史跡指定により、増加が見込まれる観光客等の受け入れにあたって、史跡ボランティアガイドの設置が不可欠であることから設置の取り組みを迅速に推進してほしい。
- ・史跡ボランティアガイドの設置にあたっては、訪れた観光客のことを知り、その人に合ったガイドができるよう、求められる技術や心構え



ガイドから説明を受ける委員

基礎知識の習得・維持していく仕組みづくりに努めてほしい。

建設農林常任委員会

久慈 聡・番屋 博光
和田 誠・澤田 道憲

【調査事項】

大雨災害復旧状況について

11月17日、8月に相次いだ大雨による被災場所のうち、被害の大きかった町道5か所、農地および河川1か所を現地調査しました。

【主な調査結果・意見等】

町道被災場所については、生活道路であるため、早期復旧に努めてほしい。また、工事着工まで期間を要する場合は、通行時の安全対策等に十分配慮し、事故のないよう努めてほしい。短期間での工事にはリスクも伴うため、リスク管理をしっかりと行ってほしい。



被災現場を確認する委員



タブレット端末の使用が始まりました!

11月の臨時議会から、議会本会議でのタブレット端末の使用が始まりました。

これまで議会が開催されるたび、議案などの大量の紙資料が配布されていましたが、これによりペーパーレス化が実現。また、議員へ送付される手紙類も、これまでは郵便やファクスによって届けられていましたが、インターネットにより全議員への一斉送信が可能になり、郵便料や電話料が節減されるとともに、議員間でのスピー

ド感のある情報共有が図られるようになりました。

今後もタブレットの機能を十分に使いこなせるよう勉強会等を開催し、議会活動の活性化や、緊急時等のリモートによる会議等にも対応していく予定です。



タブレットを利用した12月議会の様子

第508回 三戸町議会定例会(3月議会)の予定(全日程午前10時開議)

3月 7日(火)	開会、町長による議案の提案理由の説明
3月 8日(水)	議案熟考のため休会
3月 9日(木)	一般質問
3月10日(金)	一般質問、議案審議・採決
3月11日(土)	休日のため休会
3月12日(日)	休日のため休会
3月13日(月)	予算特別委員会
3月14日(火)	予算特別委員会、本会議、閉会

※新型コロナウイルス感染症予防のため、傍聴者数の制限を行っています。ご了承ください。

編集後記

皆さまいかがお過ごしでしょうか。コロナ禍の長期化、原材料等の価格高騰等、日常生活での不安が続くなか、寒さ厳しい立春を迎えることになりました。

議会では、気持ち新たに活力に満ちあふれる活動を行っていくために、議員提案による議会基本条例を制定しました。議会人としてすべきことを明確にし、開かれた議会活動に努めます。

3月定例議会では、令和5年度の予算を審議します。コロナ禍での前年度予算とは違った予算になると思います。三戸町の短期・長期の事業計画や、まちづくりのための新たな政策を審議する議会を傍聴し、活気ある議場の雰囲気を感じてみませんか。

今年も一人ひとりの意思が、町づくりに反映される仕組みづくりのために取り組みます。

(久慈 聡)

三戸町議会広報編集委員会
委員長 山田 将之
副委員長 栗谷川 柳子
委員 藤原 文雄
千葉 有子
久慈 聡
佐々木 和志